プロローグ　バロン・サツマをもとめて　13

薩摩治郎八、二八歳。パリに日本館を建てる　13

『朝日新聞』の訃報記事　17

一　綿織物の薩摩家と毛織物の杉村家　20

初代は立志伝中の人　20

薩摩治兵衛を援助した杉村甚兵衛　22

荒れ狂う波のなかへの船出　24

毛織物工業の創始者・二代目甚兵衛　27

明治の富豪は〈戦争〉で生れた　30

薩摩治兵衛「財界の巨頭」に　32

明治の富豪たち　37

二　イギリス留学での謎　40

「団十郎のような役者になりたい」　40

伊藤博文が建てた別荘に住む　42

大磯で三島章道に兄事　44

イギリス留学の時期とルートは？　45

イギリス紳士の格好をした東洋の少年　48

下宿はロンドン郊外の高級住宅地　51

タマラ・カルサヴィナとイサドラ・ダンカン　54

オックスフォード大学入学の可能性は？ 59

三 コナン・ドイルとアラビアのロレンス 62

後見人はアーサー・ディオージー 62
コナン・ドイルとの出会い 64
アラビアのロレンスとの会見の真偽 67
外人部隊に入ったのか 70
ロンドンのお坊ちゃまたち 72
治郎八は藤原義江を援助したのか 74
皇太子裕仁のイギリス訪問 79
パリ転居の理由 80

四 パリで話題の日本貴族 85

第一次世界大戦後、円が急激に上昇 86
パリジャンヌとメキシコ殿下 88
モネと親しい黒木三次伯爵夫妻 90
松方幸次郎と松方コレクション 91
王者も及ばぬ前田利為侯爵 94
社交界が三皇族の仕事場 98
浪費の雄・徳川頼貞侯爵 101
エピキュリアン・細川護立侯爵 103
一九歳で小遣い月二〇〇万円 105

五　パリへの移住と初恋　106

パリに移ったのは、いつか？　106
パリでの友人――岩崎雅通、林龍作、藤田嗣治　108
手慰みの彫刻とエネスコのヴァイオリン　112
ドラージュの家でラヴェルと出会う　113
初恋の人は、マリー・ローランサンのモデル　116
ジャンヌの豪華な賛美者たち　119
ポール・ポアレのパーティでの二つの星　121
初恋は三角関係だった　123
展望のない恋愛の打開策　125
センチメンタルな短歌で初恋を封印　126

六　一時帰国、そして結婚　129

駿河台に Villa mon Caprice を建てる　129
小兵力士幡瀬川を後援　131
『婦人画報』に新しい仏蘭西の文芸作家を紹介　132
ジル＝マルシェックスの演奏会を企画　134
フランスの新しい音楽が日本に与えた衝撃　137
パリ日本館の建設を依頼される　139
花嫁は会津のお姫様　143

七 治郎八の〈芸術品〉と『修禅寺物語』 147
治郎八のセンスで磨かれた妻の千代 147
詩人外交官・柳沢健と『修禅寺物語』 151
〈パリの文化人税関〉松尾邦之助 154
『修禅寺物語』の背景をフジタに依頼 155
藤田嗣治を罵る熊岡美彦 159
『修禅寺物語』の成功と大使館の無理解 161
薩摩父子にレジオン・ド・ヌール勲章 164

八 藤田嗣治と日本人画家たち 166
日本館の定礎式とルーヴァン大学の日本文化講座 166
パリの日本人画家たちとの交友 169
清水多嘉示、木内克、イサム・ノグチ 173
古武士のような戸田海笛 177
薩摩千代と佐伯祐三 179
サロン・デ・テュイルリーの日本人室 183

九 パリ日本人美術家展覧会 186
日本を代表する画家・彫刻家が集まる 187
柳亮が尽力した日本美術大展覧会 189
仏蘭西日本美術家協会を発足させる 192

十　大晩餐会のワインと料理を読み解く　202

ホテル・リッツに新進デザイナー、ランヴァンの燕尾服で　202
晩餐会のメニューに隠された意図　204
メニューにはもう一つの仕掛けが……　211

十一　パリ日本館　214

グラン・テカールで慰労会　214
治郎八の業績に冷ややかな日本人　217
日本館の館長代理エリセーエフ　219
「近代的質実剛健」な部屋に住んだ人たち　223
数学者岡潔と中谷兄弟の交友　227
夭折の天才考古学者、森本六爾の恋　229
林芙美子と建築家・白井晟一　232

十二　文芸サロンと治郎八　237

ド・ラ・ロシュフコー公爵夫人とド・ポリニャック大公妃のサロン　238
伝説的なミシア・セールのサロン　242
ガートルード・スタインとシェイクスピア・アンド・カンパニー書店　244
治郎八のもう一つの可能性、ハリー・クロスビー　245

福島繁太郎を囲む画家たち　195
〈薩摩派〉と〈福島派〉の展覧会　198

十三　アンドレ・オノラ　250
治郎八が私淑したアンドレ・オノラ　250
薩摩財団在京委員会と薩摩会館後援会　254
日希協会理事を兼ねる　257
オノラ夫妻の日本訪問　258
天才ピアニスト、原智恵子とピラ駐日大使　261
オノラと東南アジアを周遊　263
十四　薩摩商店の閉店と千代の療養　265
実家の閉店でタイの金鉱探しにのめりこむ　265
タイ皇室と共にイギリスの戴冠式に列席　267
プラハ美術館に日本絵画を寄附　269
家業の破産は気にしていない　272
メジェーヴや富士見高原で療養する千代　274
十五　戦時下のフランスへ　278
「フランス妻」ファビィ　279
渡仏許可獲得に苦労する　280
その後のパリ日本館　285
戦中に渡仏したブルシェたち　288
杉村大使が巴里日本美術家展を企画　291

巴里日本人会、邦人へ帰国勧告　293
続々と帰国する日本人たち　295
留学への決意が固い日本女性　298
欧州最後の特別帰還船　300

十六　治郎八と第二次世界大戦

カンヌに療養に赴きニースへ移転　302
スペインの楽聖アルベニスの旧居に住む　304
再びカンヌへ、そしてまたニース　305
戦時下でもハイレベルな生活　306
パリの湯浅年子に花を送る　309
メジェーヴへの避暑はいつか？　311
親友クリードの救助劇と武勇伝　313
トレイと号する美麗な別荘に避難　315
戦時下のパリへ出かける　317
ドイツの敗戦せまる頃　320
パリ解放の日　322
解放の熱狂のあとに飛び交う中傷や密告　324
ドラージュの家の裏に住む　326
ニースのヴィラ・マジェスティックに移り住む　329
オノラの死で帰国を決意　331

十七　金魚鉢の中の鯨　334
帰国直後に受けた原稿依頼　334
カクテルやワインの知識はいまでも通用　336
ツール・ド・フランスを初めて日本に紹介　338
豊富なシャンソンの知識と交友関係　341
「ごきげんよう」の先生、若い踊り子と再婚　344
阿波踊りを見たあと脳卒中で倒れる　348
ものを考えるときはフランス語で考えている　351
シャトー・マルゴーを末期の水に　354
あとがき　357
参考文献　362
薩摩治郎八　関連年譜（1901～76）　375
薩摩治郎八　関連系図　390
主要人名索引　401